

# 承継新聞

## おおいた事業承継・引継ぎフォーラム

10月5日～7日の3日間、わたり大分市のコンパルホールにて開催された「おおいた事業承継・引継ぎフォーラム2023」。延べ135人の方々に参加いただいたDAY1～DAY3について、イベント別に実施内容をご紹介します。

10月5日( DAY1 ) 「待ったなし! 事業承継・未来への一歩を踏み出してみよう」



①九州経済産業局今村勇介係長から、国の事業承継・引継ぎ支援の取り組みについての講演

②当センターのセンター長である上尾から、大分県における事業承継の現状と公的支援の紹介

③熊本県からお越し頂いた、民宿「夕風館」の前オーナーの山口賢司さんから、オープンネーム方式で事業承継を実現した自身の実体験を紹介。熊本地震、人吉の水害を乗り越えて事業を継続する中で、高齢となり体調にも不安があり第三者への承継を決意した経緯など、益城町商工会・鈴木寛明経営指導員同席のもと、実体験を交えてお話しいただきました。

講演後、会場から「夕風館という実名を出して売り情報を提供したことで、注意したことや懸念したことなどはありますか?」という質問に「名前を出すことの抵抗感

はやはりあった。地方なので名前が出る身売りをするといった憶測を呼ぶ可能性もあったが、妻とよく話し合い、また『廃業はもったいない』といった周囲の声もあったので、商工会経由でお願いした。結果、早期に相手も見つかり本当に良かったと感じています。」とのことでした。

④宮崎県からお越し頂いた株式会社キヤビア王国の鈴木宏明代表取締役から、家業の建設業から新規事業への挑戦と、地元伝統食「ねむらせ豆腐」をM&Aで承継した経緯など、親子の葛藤も含めて生々しい現実の苦労話もしていただきました。

10月6日( DAY2 ) 「親子承継の多様なカタチ」私たちがこうして親族内承継を実現!」

①臼杵市の株式会社後藤製菓後藤亮馬代表取締役より、親族内承継の実体験とこれからの展望についての講演

②日出町の株式会社グリーンエールム・西野兄弟、竹田市のえとう印刷・河野、伊東姉妹、株式会社後藤製菓の後藤社長を交えたトークセッションでは、家業を継ぐことを意識した時期や、兄弟姉妹での役割分担、経営資源の承継などについて語って頂きました。

大分県事業承継新聞

12月15日 (金曜日)

発行所: 大分県商工会連合会  
大分県事業承継・引継ぎ支援センター  
〒870-0026  
大分市金池町3-1-64  
大分県中小企業会館5F  
Tel 097-585-5010  
Fax 097-585-5011  
https://oita-hikitsugi.go.jp

10月7日( DAY3 ) 「アトツギ集まれ! アトツギ甲子園にチャレンジしたい人、必見!」

①中小企業庁の越渡一郎係長から、国のアトツギへの支援策や今年度のアトツギ甲子園について講演

②当センター栗山サブマネージャーから、アトツギ甲子園の傾向と対策についての講演

③第1回から第3回までのアトツギ甲子園ファイナリスト3名によるトークセッション

宮崎県からお越し頂いた城山ふとん店の松田陽子さん、福岡県からお越し頂いた魚久精肉総本店の中村拓也さん、豊後大野市からお越し頂いた株式会社村ネットワークの應和春香さんから、アトツギ甲子園に出場した経緯、出場後の変化や反響、国や支援機関への要望等について語って頂きました。

### ミニ情報

「事業承継特別税制」の確認申請の期限が令和6年3月31日となっています。商主体等から期限の延長を希望しており、12月の税制調査会議論され予定と聞いています。制度活用を考えておられる方は、各メディアのニュースに注目してください。

「第3回アトツギ甲子園」のドキュメントビデオが完成しました。前回の承継新聞でもお知らせしましたが、日出町の西野文貴さん、豊後大野市の應和春香さん、日田市の田島大輔さんのアトツギ甲子園の様子やその後についてのお話を聞いています。ご覧ください。下記のQRコードから閲覧できます。



望等について語って頂きました。

3日間を通して、「具体的な事例や事業者、後継者の生の声や実体験を聞いて参考になった」、「今後の支援に役立つ」といった意見を多くいただき、大変好評でした。詳しい内容については、センターホームページでフォーラムの動画を期間限定(3月31日まで)で配信しています。都合により参加できなかった方はもちろん、事業承継に取り組んでいる事業者の方々の生の声を聞いてみたい方は、ぜひご覧ください。

### 次世代経営者育成セミナー

大分県事業承継・引継ぎ支援センターでは、次期経営者となる方々を対象に『おおいた次世代経営者育成セミナー』を開催しました。10月25日(水)と11月21日

(火)の2回のシリーズで、合計12時間にわたり開催。経営者となった際に必要な知識を学ぶとともに、自社の経営状況について国が作成しているローカルベンチャーを使うって自社の経営状況を把握し、継いだ後の新たな展開を模索できる機会としています。

第1回目の10月25日には、11名の次世代経営者が参加され、熱心に講師の講義に聞き入っていました。

初回のゲスト講師としてお迎えしたのは、臼杵せんべいで有名な株式会社後藤製菓の代表取締役である後藤亮馬さん。



大分県の躍進の理由についてよく聞かれますが、私は次にお答えしています。ひとつは、大分県に限りませんが、地方であるが故の「必然性」です。新しく創業する方の大半は都市圏へ出て行きますが、「アトツギ」は「ファミリービジネス」として、地元(地方)に根ざした事業有形無形の経営資源を引き継ぐことになりま

「先輩後継者による事業承継体験談」と題して、実際に事業を引き継いだ後に遭遇した課題や悩みの克服法などの実体験を披露されました。

また、専門家3名による講義として、池田至郎税理士が「経営者の視点で見る財務の基本」と題し、後継者の方が特に苦手とする決算書の見方をわかりやすく解説。

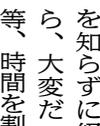
ブルの回避方法などを説明。第2回目は、センターの岩崎エリヤコーディネーターから「事業承継計画策定方法」、センターの栗山サブマネージャーから「経営自己診断ツール活用ポイント」、株式会社トリアナ川野剛代表取締役から、「実践デジタルマーケティング」についての説明。ビジネスで利用するツールについても詳しく実践を交えて説明。

藤原文司社会保険労務士から「入止のポイント」と題し、従業員に対し社長の立場として対応すべき労務管理やメンタルヘルス、ハラスメントの対応などについて説明。

出席者からは「とても大事なことを学びました。今日の講義内容を知らずに経営者になっていたら、大変だったかもしれない」等、時間を割いてでも参加して良かった、という感想が多く寄せられました。



小川川類弁護士からは「経営者が身につけておきたい法務の基礎知識」と題して、会社法や契約の時に起こりやすいトラ



今年も、大分県から8名のアトツギさんがエントリーされています(12月13日現在)。公式ホームページ(https://atotsugi-koshien.go.jp/entry)では、地元後継者・推し後継者への応援合戦が盛り上がってきました。是非、大分県からのエントリー者に「いいね!」で応援をお願いします。



栗山 浩一

サブマネージャーの現場から

大分県における「アトツギ」支援の歩み今年も、「アレ」の季節がやってきました。若手後継者にとり、年末から年度末の「風物詩」となった、中小企業・小規模事業者の後継者が家業の経営資源を活かした新規事業アイデアを競うピッチイベント「アトツギ甲子園」。第4回となる今年度は、本日12月15日にエントリーが締め切ら

れ、アトツギ業界の頂点を目指した熱い戦いがスタートしました。当センターでは、令和元年度から「ベンチャー型事業承継」支援の一環として、若手後継者の経営革新への取り組みの支援。翌年度からスタートした「アトツギ甲子園」の啓蒙活動、エントリー者の掘起し、商工会や商工会議所、大分県とも連携しながら、オール大分での支援を推進してきました。その結果、全国15名で競う決勝大会には、3年連続6名のファイナリストを輩出(大阪府の8名に次ぐ数)し、昨年度は、最優秀賞を獲得しました。エントリー者も、この3年間で21名を数えます(全国431名の5%)。この

今年も、大分県から8名のアトツギさんがエントリーされています(12月13日現在)。公式ホームページ(https://atotsugi-koshien.go.jp/entry)では、地元後継者・推し後継者への応援合戦が盛り上がってきました。是非、大分県からのエントリー者に「いいね!」で応援をお願いします。

今年も、大分県から8名のアトツギさんがエントリーされています(12月13日現在)。公式ホームページ(https://atotsugi-koshien.go.jp/entry)では、地元後継者・推し後継者への応援合戦が盛り上がってきました。是非、大分県からのエントリー者に「いいね!」で応援をお願いします。

# ネットワーク連絡会議で情報交換

国・県の行政機関、県内の金融機関、土業、商工団体や支援機関が一堂に会しての「第2回大分県事業承継ネットワーク連絡会議」が11月8日に大分県中小企業会館で開催されました。センターから上半期の実績、下半期の事業計画についての説明。



大分財務事務所の大田理財課長から、地域金融機関等をメインバンクとする3万社のアンケート結果について説明。アンケートによると事業承継の相談相手の第一位は顧問税理士、次にメインバンクの順となっていました。事業承継の相談先としてメインバンクに相談しない理由として「相談しても期待できない」が44%、「相談できる程の信頼関係がない」が18%と、金融機関にとっては耳の痛い結果となりました。

九州経済産業局中小企業金融課の柿川課長からは、国の事業承継・引継ぎ支援の取り組みについての説明があり廃業が増加傾向にある現状、コロナの影響などの現状とM&Aに関する施策、後継者支援、市町村などの自治体関与が事業承継にとっても重要になること等の説明がありました。地域全体で地域に必要な産業を継業していくことの重要

性についても、各地域の事例を交えて説明されました。

大分県はアトツギ王国ともいわれ、過去3年間のアトツギ甲子園では大阪府に次いで多い6名のファイナリストを輩出しており、今年3月3日の全国大会に出場して優勝した日出町の西野文貴さん、豊後大野市の應和春香さん、日田市中原江村の田島大輔さんの3人にスポットをあてた当センター制作のドキュメント作品を全員で視聴(センターホームページでも公開中)。各機関で取り組んでいる事業承継支援や課題など全員から意見が出され、情報交換を行いました。廃業を少しでも減らしていくためにさらに連携強化をしていくことを確認しました。また、このネットワーク会議で議論した内容を全商工会、商工会議所、市町村の担当者や情報共有するために県内7か所でのリアネットワーク連絡会議を開催しました。

## 研修で支援能力アップ

県の事業承継支援の重点事業として、大分県商工会連合会が実施することとな

## 黄金株について

### 事業承継Q&A

**質問** 事業承継で子供に株式の大半を譲る予定ですが、会社の大事な方針には進言したいのだが？

**回答** 「拒否権付き株式」なら一株でも進言できます。いわゆる「黄金株」と呼ばれており、一株しか保有していなくても会社が行おうとした合併などの行為に反対して実行を阻止することができます。

拒否権を有している事項であれ



「伴走支援人材育成研修会」。この事業は、県内の商工会・商工会議所の経営指導員、金融機関・土業等の支援担当者の情報収集力や課題解決力等の専門性向上を目的として12月4日(6日)の3日間、大分市ホルトホールで開催されました。3日間とも内容が違い、1日目は親族内承継支援、2日目は第三者承継支援、3日目は評価価値の算出手法のカリキュラムでした。講師は、事業承継に関する書籍を数多く執筆している事業承継コンサルタントティンク株式会社代表取締役公認会計士の岸田康雄先生をお招きし、知識の伝授と事例研究をするという実践にすぐに役立つ内容でした。参加者もトータルで94名で、参加後の

た「伴走支援人材育成研修会」。この事業は、県内の商工会・商工会議所の経営指導員、金融機関・土業等の支援担当者の情報収集力や課題解決力等の専門性向上を目的として12月4日(6日)の3日間、大分市ホルトホールで開催されました。3日間とも内容が違い、1日目は親族内承継支援、2日目は第三者承継支援、3日目は評価価値の算出手法のカリキュラムでした。講師は、事業承継に関する書籍を数多く執筆している事業承継コンサルタントティンク株式会社代表取締役公認会計士の岸田康雄先生をお招きし、知識の伝授と事例研究をするという実践にすぐに役立つ内容でした。参加者もトータルで94名で、参加後の

ば、株主総会で多くの賛成を得ることができたとしても、拒否決議株主の種類株式総会で黄金株を持つているあなたが反対すれば、決議事項は効力を得ることができません。ただし、非常に強大な権利となるため、通常、M&Aや代表取締役の選任・解任等、会社にとって影響の大きい事項について定めることが多いようです。ただし、過半数を有する株主と対立した場合は、会社としての意思決定ができないデ



なごたくさんの方が相談にきました。ほとんどの相談者は課題が解決してすっきりした様子でした。

いくつか相談事例を挙げてみます。

(1) 不動産業。経営者が高齢で、認知症を患っている。現在3人兄弟の一人が事業を実行しているが名義は経営者のまま。相続のこともあり、どのように対応したらよいか？

(2) 事業用資産の譲渡方法について聞きたい。

(3) ホテルを経営しているが、後継者は県外在住で継ぐ気はない。第三者承継の方法を聞きたい。

(4) 個人企業であるが、承継するにあたって、個人のままが良いか、法人成りした方が良いか？

等、様々な内容でした。

アンケートにおいても「今まで体験したことのない事例についても詳しく勉強できて、今後の支援に役立つ」という感想を数多くいただきました。

## 専門家相談会

10月24日に津久見市でスタートした専門家(弁護士、税理士)による相談会。その後、宇佐市、日田市、豊後高田市、豊後大野市、国東市、佐伯市と続き、計7か所で開催しました。弁護士は、初倉了胤先生、上野貴士先生、生野裕一先生、確井啓己先生が担当。税理士は池田至郎先生、平岡祐一朗先生、清末敬弘先生、田中俊一先生でした。普段、なかなか相談できないような家族間の問題や後継者が不在で廃業しか方法がないのかと悩んでいる方

## リアネットワーク会議

ネットワーク連絡会議(本面上段に記事掲載)の情報共有と中小企業基盤整備機構の三室アドバイザーから市町村と商工団体、金融機関が共同で実施した日田市パトナタッチワークショップの取り組み、各機関の取り組み内容などの意見交換を県内7か所で開催し、12月にかけて開催し、市町村と商工団体の連携を深めることができました。(写真は玖珠町会場)

**編集後記**

令和5年も残すところあとわずかとなりました。当センターの十大ニュースをメールマガジン(センターホームページからも申込可)で公開予定です。3月にはアトツギ甲子園でセンターが支援した西野文貴さんが全国優勝、10月に大きなイベント、11月からは後継者向けのセミナー等、新事業もたくさん実施しました。令和6年も新事業に取り組み予定です。よろしくお願ひします。



## 今号のオススメ本

本日に賢い会社の  
たたみ方  
花本明宏著  
戦略的撤退をやるなら今!  
優秀な経営者は「たたみ方」が上手い  
ウォルト・ディズニーストリー・サンダーズは破産の天才?  
自分でも立ち上げ、育て上げた会社をたたむことは、大変つらいことだと思います。センターとしても少しでも廃業を減らすためのお手伝いをしていきます。どうしてもやむを得ない場合、どのように整理するか、タイミングはどうか、などの具体的方法が語られています。